

ねや川サナトリウム

住所	寝屋川市寝屋川公園 2370 番地 6	電話	0 7 2 -8 2 2 -3 5 6 1
病床数	2 6 7 床	病棟数	5 病棟

人権センターニュース No.86 より

オンブズマン活動報告

平成 19 年 11 月 27 日訪問

平均在院日数 1331.5 日（平成 19 年 11 月 27 日時点）

病院全体

病院側の説明

- (1)人権委員会：委員長は院長。開催は 1 回/月。投書箱は各病棟・外来に設置。回収は 2 回/月。今後 1 回/週回収したい。投書への返答は掲示。
- (2)行動制限最小化委員会：設置している。
- (3)担当制：担当看護師と病棟担当の PSW がいる。
- (4)診察：各病棟に診察室がある。
- (5)服薬：詰所前やデイルームに患者が取りに来る。
- (6)外出：開放処遇患者は外出届を出す。閉鎖処遇患者は、家族同伴、職員同伴、グループ外出、単独外出という段階がある。
- (7)金銭管理：管理費 150 円/日。自己管理は 2 割弱。ここ 1~2 年で増加。鍵付きロッカーは全員にある。
- (8)食事の選択メニュー：3 回/週（昼と夜）。
- (9)入浴：週に 3 回。
- (10)面会：各病棟に面会室有。面会時間 9 時~5 時。
- (11)携帯電話：基本的に詰所で管理。病棟内では、公衆電話の近くで使ってもらっているようにしている。
- (12)院内売店：ある。現金か伝票で支払う。
- (13)医療相談室：病棟担当の PSW は 7 名中 6 名が外来と病棟を担当している。

病棟の様子 前回（平成 15 年 12 月）、訪問時、1 人当たりのスペースの狭さが検討事項にあったが、改装により 1 人当たりのスペースは増えた。

【トイレ】前回、低かったトイレの扉は改善された。ナースコールは個室もしくは外にあった。

【電話】高い囲いや椅子があった。電話が 2 台ある病棟もあった。権利擁護機関の掲示は病院独自の物でわかりやすかった。

【喫煙コーナー】1 階東病棟から屋外に出たところにあった。病棟によっては「健康上のため」煙草は 1 日 1 箱程度、患者によっては 1 本ずつ手渡されていた。「3 階から、階段で自由にここに来られる」

1 階西（開放 男女 35 床 精神療養）

病院側の説明 60 歳代が多い。病院のバスを使い、スーパー等に出かける患者もいる。薬の自己管理は 30 名で金銭の自己管理は 2 名。退院に向けての支援を進める病棟で申し送り時に PSW が参加する。PSW や看護師がグループホームや作業所への見学に付添うこともある。患者は個人 SST、病棟 SST に参加していることが多い。

病棟の様子 デイルームで SST が行なわれていた。長椅子に座る患者、病室で過ごす患者など様々だった。各ベッドにカーテンは設置されていたが、訪問時はあいていた。

患者の声「入院して3ヶ月くらい。服はリース。食事はおいしい。OTと日曜はカラオケ、ビデオがある。スーパーで買物もする」「30年以上入院している。住み心地はよい。食器が変わってきれいになった。ロッカー代は無料」

1階東（閉鎖 男女 35床 精神療養）

病院側の説明 長期在院の患者、急性期治療病での治療は終わったがすぐには退院できない患者などが混在している。50～70歳台が多い。週に5回、売店への外出に付添う。週に1回はデイケアで喫茶がある。病院の畑に出かけたり、月1～2回、OTとして散歩に行く。援護寮への退院に向けたサポートなども行っている。病棟通信を作り家族への手紙を書く。

病棟の様子 広いデイルームには多くの患者がいてにぎやかだった。OTの散歩の案内が掲示。

【隔離室】詰所の隣にあった。正面に透明の強化プラスチックの仕切りがあった。その向こうに職員用通路、窓があった。集音マイク、モニターがあった。

患者の声「説明なく隔離室で拘束され、ベッドの中にいた。今は6人部屋。服はリースでお金は病院に預けている」「病棟の外にはあまり出ていない」

2階（閉鎖 男女 59床 老人性認知症疾患治療）

認知症、精神疾患認知症とその他の精神疾患をもつ患者の病棟。ポータブルトイレは基本的には患者の希望で設置。買物は看護師が代理で購入。オヤツタイムは1回/日。家族から料金を徴収しゼリー等を食べてもらう。閉鎖処遇患者の外出、買物は家族が希望があれば看護師が付添う。OTで週に1回院外散歩に行く。個人OTや、音楽療法、料理、絵画もある。**病棟の様子**【浴室】機械浴、一般家庭の浴槽、シャワー浴があった。浴室入口までの通路は1.2メートル幅くらいであるが、30センチ分ほどは物が置かれ車椅子がぎりぎり入る程度の広さだった。家庭浴、シャワー浴は希望すればいつでも入れるが、決まった日以外は使わないのが現状。

3階南（閉鎖 男女 53床 精神一般 15：1）

病院側の説明 男性39名、女性11名。在院期間が1年以上の患者、慢性期の患者、急性期病棟から転棟して来る患者がいる。合併症(循環器、褥そう等)の患者もいる。入院期間は長くて5年程度。年齢は20～80歳代。開放処遇の9名は駅周辺や自宅へ外出をする。閉鎖処遇の患者は個人的な外出や院外での買物はなく、殆んど院内の売店で買う。OTで歩ける患者、車椅子の患者それぞれ週に1回ずつ公園、古墳などへ散歩に行く。自販機を使う患者には100円を手渡す。課題は長期入院の患者を開放病棟や療養病棟に転棟させること。金銭管理や服薬管理を出来ない人が多く、退院は難しい。デイルームができ、大分ゆったりはできるようになったが急性期の病棟と同じフロアであることの問題がある。

病棟の様子 モニターカメラのある個室があった。ポータブルトイレが設置してあった。隔離室として使用する場合がある。

患者の声「診察は週に1回。時々悪くなったらすぐ医者がきてくれる。担当の薬剤師が病室に来て薬の説明をしてくれる。PSWは入退院のときや金銭管理のときにかかわってくれる」「金銭管理の預かり料1ヶ月4,500円くらいかかってくる。高いと思う」「相談できる人が多いからいい」「毎月お誕生日会がある。自己紹介をして、みんなで歌ったりケーキを食べたりとかして楽しむ」「OTに行けない時は、ずっと寝ているだけで」「おしめの人が多い」「決まった時間に看護師が自分の病室を訪れてくれる。病棟をよく歩いているので安心する。」

3階北（閉鎖 男女 60床 急性期治療）

病院側の説明 単独外出可能の人は金銭を自己管理。退院前に薬剤師から薬の内容を伝える人が少ない。伝えることでよけいに飲まなくなる人もいるため。

病棟の様子 以前屋上だったところにデイルームとトイレが増設。3階南とデイルームを共有し、行き来は自由だった。意見箱等があったがロッカーと電話の間にあり、少し目立ちにくい。自動販売機があり、その他にお茶や水も出る給湯器が2台あった。スロープの傾斜注意、衛生面の注意などが大きく書かれており、わかりやすい。

【隔離室】2ヶ所にわかれて3室。部屋の両端が三角形になっていた。トイレの水洗は室内からはできず、職員が室外から操作。扉横に太くて白い格子2本があった。奥には強化プラスチックの窓、その向こうに職員用通路があった。トイレはドア側には囲いがあったが、職員用通路からは見える。強化プラスチックの窓の上の方はあいていた。患者の声が聞こえるようにしてある。

【病室】2~6人部屋。病室内に床頭台がなかった。各病室とも扉はなく、ベッドごとのカーテンで中が見えないようになっていた。鏡が多く、柱に1~2枚あった。「鏡は改修前からつけられていた。患者が身だしなみを整えたりする時に見ている事もある。」325号室と323号室の間の壁の上下に隙間があり、互いの部屋の声がよく通った。隙間の理由は「改修時にエアコンの問題があり、そのままにしている。」

患者の声「キツイ事も言われるけどその裏返しで思いやってくれている」「トイレが遠い。夜の見廻りを多くしてほしい」「服は衣装ケース1個。品物は、ロッカーと決められている。床頭台にコップなど置きたい」「食事にさばが多い。もう少し、彩りや変化が欲しい」「診察は、週1回、他にも診察室である」

4階（援護寮「ネヤハイム」）

病院と同じ建物にあった。病院と入口は別に有。個室、2人・4人部屋、ショートステイ用と共有スペースがあった。廊下に明かりがついておらず、日光の届かない曲がり角は暗い印象を受けた。玄関はバリアフリーだが、トイレは10cm程の段差があった。

検討事項

【隔離室から看護師を呼ぶ方法の確保を】(3階北)

トイレを使用した後、看護師に知らせる方法がなく、トイレの中に大便がそのままだった。病院側によると「巡回時に流す。用を足したから流してくれと職員に声かけをする人としらない人がいる。」巡回は約60分に1回で、延びることもある。(病院：切り替え式のものを設置します。ナースコールはありませんが、集音マイクが設置されていますので、いつでも詰所に呼びかけられる体制を取ります。)

【隔離室のエアコンの換気口の掃除を】(3階北)

患者が「エアコンの音が気になる」と指す方向の換気口はチリでふさがり音が出ていた。(病院：掃除に関するチェック項目を設け、定期的に掃除を行うことを徹底し、衛生面での改善を図ります。)

【足が不自由な患者への配慮を】(3階北)

患者から「トイレが遠く、足が不自由で、いつも服をぬらしてしまう。尿瓶をベッド横におけるように配慮してほしい」との声があった。(病院：尿器やポータブルトイレを患者の状態に合わせてご利用頂けるよう、これまで以上に配慮いたします。)

【入浴しやすい浴室に】(2階)

職員から「狭くて介助に不便。改良して欲しいとの要望は出している」との声があった。段差もあった。(病院：スタッフ一同、入浴により心身のリラックスしていただけるよう介助する事を心がけ、快適な入浴環境が提供できるようにいたします。)

【私物・私服を自分で管理できるスペースの確保と支援を】

リースの服は上下のトレーナー、くつ下、下着、タオル等が含まれるセットがあり、11,880～13,760円/月(生活保護の場合、低い設定)だった。他病院と比べるとリースの服の患者の割合が多いようだった。病院側は「職員が手伝いながら自分でする患者もいるが、長く洗濯をしてこなかった長期入院の患者の多くは洗濯を勧めてもしないことが多い」。一方で患者は「(リースの服は)病院のきまりのようなものではないか。治療のために入院しているから着ておかなあかんと思っている」と言い、周りの患者もうなずいていた。「リースが決まりではない」と周知していただきたい。床頭台がない病棟や、とベッド下の収納ボックスを撤去した病棟もあった。(病院：床頭台の設置を6月に予定。私物管理を患者権利の視点からとらえて、療養環境を整備していきます。)

【しんどい時には横になれるように】(1階西・東)

1階西では「日中はふとんをたたむことになっている。『寝るのは夜に』と言われる。横になるのが悪いことのように思うのでしんどくても我慢している」との声があった。1階東では多くの部屋でふとんが半分にたたまれていた。(病院：起床したら身なりを整える事で生活リズムを整えるように促していますが、強制ではありません。心身の状況により、随時臥床されているかたもいらっしゃいます。今後も患者個々に臨機応変な対応を心がけます。)

【退院に向けての支援】

・「退院の目処について主治医と話せる」と言う患者がいる一方で「治療計画書は入院時にもらったきりで、3年以上入院しているが、その後どのような処遇計画に基づいて治療を行っているのかはわからない」との声もあった。

・「ケースワーカーは1度話しただけ。担当とかはあるのかないのかわからない」との声もあった。(病院：患者ひとりひとりに受持ち看護師、補助者がつき、担当PSWと共に退院に向けての援助を心がけています。担当者等を掲示することも検討し、患者と共に退院に向けた取組みを進められるよう、綿密な退院計画を立てて行きます。)

【薬の渡し方に配慮と工夫を】

詰所前やデイルームに取りに行くことになっていた。(病院：看護師が病棟を訪ねて手渡しする方法や、自己管理できる患者が増えるように看護を行い、個々に応じた服薬方法が選択できるように考慮していきます。)

【病院と援護寮との明確な区別を】

援護寮の入居者と病棟の患者が食堂を共有する事に慣れている関係に疑問を感じた。「9時点呼、食事は(病棟の)2階のホールで摂り、デイケアに行く。部屋に帰るのは2時半。それから洗濯したり用事をするルール」。各自の部屋や仲間と食べることが当たり前に見える環境が必要である。病院との区別は退院した自覚を持つためにも大事です。(病院：生活訓練施設の方は、デイケア内のスペースを利用して食事していただくよう変更しました。)

人権センターが情報公開請求で入手した

H19 大阪府精神保健福祉関係資料より

(ねや川サナトリウム病院分)

262名の入院者のうち統合失調症群が174名(66%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が49名(19%)、気分障害が22名(8%)。入院形態は任意入院117名(45%)、医療保護入院145名(55%)。在院期間は1年未満が81名(31%)、1年以上5年未満が96名(37%)、5年以上10年未満が45名(17%)、10年以上20年未満が25名(10%)、20年以上が15名(6%)。(H19.6.30時点)